

いち早く

山本友義 (鳥根県出雲市佐田町・(株)未来サポートさだ代表取締役)
写真 大村嘉正

リモコン式草刈り機を 導入した中山間の組織の話



リモコン式草刈り機は、今、農家の熱い視線を最も集めているスマート農機。来年からは現場に一気に広がりそうだ。そんななか、昨年春からいち早く導入し、傾斜の厳しい中山間地の法面で、すでにバリバリ使いこなしている法人を発見。鳥根県出雲市佐田町の「(株)未来サポートさだ」。八つの集落営農の広域連携組織だという点も、今っぽい。山本友義社長に、ご寄稿いただいた。



耕放支援隊
こうほうしえんたい

【作業内容】
・水田や畑などの農地の草刈り作業
・家の周り・生活道の草刈り作業
・農道・荒廃地の草刈り作業
・その他要望箇所の草刈り作業 **お見積もり無料です!**

【作業料金】
・1アール(100m)あたり **1500円**
(例:年3回ご利用の場合は4500円)
・刈り取り回数をご希望に致します。
・料金は通常作業(税・諸経費込)の価格です。

【お申し込み・お問合せはこちらまで】
0853-84-1588
平日 8:30~17:00
※平日休業日、土日祝日はこちらまで! 080-6346-0757

地域おこし協力隊で(株)未来サポートさだに来た村岡大吾郎さん(左)と筆者。後ろに見える水田の畦畔もすべて、このリモコン式草刈り機で最近草刈りした



デンマーク製Lynex1000。斜面刈りが得意。ガソリンエンジンで、刃はハンマーナイフ、重量295kg

このままでは……と、八つの集落営農が結集

佐田町は、島根県出雲市の中心部から車で30分。中国山地の入り口に位置し、人口4000人弱の小さな町で、平成の大合併で出雲市となりました。急峻な農地に小規模な農業を営む農家がほとんどで、厳しい立地条件下にある中山間地域です。

地域農業は、いよいよ本格的に高齢化と担い手不足に見舞われてきました。耕作放棄地となる農地の増加。それを担う中山間地の営農組織も、やはり高齢化と後継者不足で受け皿となるどころか、組織維持のため懸命です。これ以上の農地集積は困難。かたや離農する農家のスピードは山間地ほど早く、一つの組織で対処できるような話ではもうありません。

このような切なく厳しい現状と、10年20年先の農業情勢を見極めた新しい組織の取り組みが必要です。町内の各営農組織は次のステップに進み取り組もうと話し合いを進め、8組織が連携し、組織の拡大を図ることで合意しました。2013年4月、こうして発足したのが農業法人「株未来サポートさだ」です。

リモコンで動く草刈り機で、草刈り隊

草刈り部隊「耕放支援隊」は、そんな「未来サポート」が、昨年の3月に新たに立ち上げたものです。

いま、農業の中で一番の重労働は、何といっても草刈り作業です。特に中山間地は法面が広く急斜面で、そのうえ畦畔の数が多いたたり前。離農する農家の一番の理由は、「年を取り、草刈り作業がきつくてできなくなったから」。

営農組織が集積した農地にも法面が付いてきます。未来サポートのメンバー8組織とも、その広い法面の草刈り作業に大変な労力を費やしているのが現状です。組織の中心の働き手も高齢化するなか、新規集積にも二の足を踏むようになっていきます。

そんななか、3年間の構想を経て発足させたのが「耕放支援隊」。まずは草刈りの機械化を図ろうと、リモコン式草刈りロボットと、トラクタに装着するアーム式ハンマーモアの導入を目指し、機種を選定に入りました。全国を探しましたが、当時、斜面を刈るリモコン式草刈りロボットは日本にはなく、一部の研究機関が開発に取り組んでいる段階でした。待つてはおれず、やむなく外国製に目をやると、何種類かの草刈りロボットがありました。さっそく富山県の輸入元まで視察に出かけ、実際に現場でロボットを操縦。刈り取り可能な法面の角度、機械の構造、メンテナンスの状況、価格などを検討した結果、デンマーク製の機械に決定しました。

このロボットは長さ・幅とも1・5mで高さ90cm。刈り幅は1mです。45度前後の法面勾配なら軽く刈り取ります。高さが低く正方形なので、通常、転倒はありません。カタログには70度でも刈れると書いてありますが、それはよほ